

国史跡池上曾根遺跡の発掘調査を現地公開

～弥生前期の土器が大量出土！ 大型柱穴見つかる、楼閣風建物か！？～

和泉市教育委員会は、池上曾根遺跡公園の整備にともない、国史跡池上曾根遺跡(和泉市池上町)の発掘調査を行っている。今回の発掘調査の対象は、大型建物(いずみの高殿)に近接した約880㎡で、一昨年、史跡のき損が見つかった部分を含む遺跡中心部にあたる。池上曾根遺跡の成立や特徴を考えるうえで重要なエリアであり、遺跡中心部の全貌が明らかとなった。

■発掘調査の結果

- ①弥生前期の土器が大量に出土した。瀬戸内地域の影響が強い土器が含まれており、池上曾根遺跡の誕生、ひいては泉州における弥生文化のはじまりについての歴史が書き換えられる可能性を秘めている。
- ②日本列島で類例のない焼土遺構が広範な範囲で見つかった。その機能・役割については、様々な案が挙げられているが、現在、自然科学分析等も含め、その性格(祭祀説、鑄造関連遺構説、建物の床面説など)を検討している。
- ③いずみの高殿と方位をそろえた、1.5メートル四方の大型柱穴が9基見つかった。弥生時代中期の楼閣風建物の可能性があり、近畿地域においては初例と考えられる。
- ④史跡のき損行為によって、古墳時代の木棺墓群、弥生時代中期の大型建物群、弥生時代前期の良好な土器群などが失われたことが判明した。

■現地公開

日時 3月28日(土) 第1回 午前11時から

第2回 午後1時から ※いずれも40分程度、雨天中止

申込 事前申し込み不要。直接、池上曾根遺跡にお越しください。

アクセス JR信太山駅から徒歩8分 ※史跡公園整備工事中につき、駐車場はありません

●発掘担当者(和泉市教育委員会文化遺産活用課 学芸員 上田裕人)のコメント

史跡内における遺跡の破壊行為は、誠に遺憾です。その一方で、新たに分かった大型柱穴で構成される楼閣風建物や、これらの大型建物に囲まれた内部にある焼土遺構は、拠点の巨大集落である池上曾根遺跡の内部構造や集落景観を考える上で重要な資料となります。ぜひ現地で弥生時代のロマンを感じてみてください。

①弥生時代前期土器出土状況（東から）



①弥生時代前期土器出土状況（北から）



<お問い合わせ先>

和泉市教育委員会 文化遺産活用課 TEL : 0725-99-8163

②焼土遺構の自然科学分析試料採取状況



②焼土遺構の自然科学分析試料採取状況



<お問い合わせ先>

和泉市教育委員会 文化遺産活用課 TEL : 0725-99-8163

③1.5m 四方の大型柱穴で構成される楼閣風建物 遠景（西から）



③1.5m 四方の大型柱穴で構成される楼閣風建物 近景（西から）



<お問い合わせ先>

和泉市教育委員会 文化遺産活用課 TEL : 0725-99-8163

④毀損された大型建物の柱穴（北から）



④毀損された遺構断面写真（北から）



<お問い合わせ先>

和泉市教育委員会 文化遺産活用課 TEL : 0725-99-8163